



Weekly Report

創立:1980年(昭和55年)1月10日

会長:大島 浩嗣

幹事:稲葉 徹

会報委員長:高木 勝

例会日:毎週木曜日 PM12:30~

会場:ビルトン名古屋

事務局:460-0008

名古屋市中区栄1丁目3-3

ビルトン名古屋910号

TEL:052-211-3803

FAX:052-211-2623

Mail:2760nagoya@mizuho-rc.jp

URL:http://www.mizuho-rc.jp/

CELEBRATE ROTARY

2004~2005年度 国際ロータリーのテーマ ロータリーを祝おう 2004~2005年度 R.I会長グレンE.エステス・シニア

第1215回例会

~世界理解月間~

2005年2月10日(木) 晴 第29回

司 会:(西本哲会場副委員長)
 体 操:ストレッチング(船渡昭人会場委員)
 斉 唱:「我等の生業」
 ゲ ス ト:文化研究員 野村辰美氏
 (八木沢幹夫親睦活動委員)

副会長挨拶

館健吾副会長

本日は大島会長に替わってご挨拶させていただきます。今日はバレンタインが近づいてきましたので、そんな話をしようかと思いましたが、バレンタインという年でもないの違う話をさせていただきます。先回のクラブアッセンブリーで出席免除の人は卓話でもやった方がいいのではないかという意見が出ておりました。そういう事で出席免除の一人として、ロータリーの昔の話をさせていただきますと思います。



昔のロータリークラブのメーキャップは今と違って、例会を挟んで前後1週間でした。また、会場委員会はなく、S.A.Aが全て会場をまわっていました。その時、私はS.A.Aの委員長をやっていました。私が前に在籍していたクラブはホームクラブ出席はうるさく言われなかったのですが、メーキャップだけはして下さいと言われました。そして私は例会日のギリギリ前日にメーキャップに向かいました。会場は名古屋空港クラブで、会場委員長の天野さんのお父様が会長をやっておられました。場所は栄の中日ビルにございました。私は100メートル道路を車で走って会場に向かっておりました。信号が黄色になったので止まりました。そしたら後ろの車が追突してきました。私はメーキャップの時間が迫ってくるし、後ろの車は軽自動車でしたのでバンパーを眺めただけで、「結構です。いって下さい」と言いました。相手の人はおどおどしておりましたが、喜んでいきました。これには訳がありまして、アメリカで私の友人が運転する車が前の車に追突して、ヘッドランプがぐちゃぐちゃになるほどぶつかりました。私はこれは大変な事になったと思いましたが、追突された前の車の人がバンパーをさっと眺めて、「O.K」と言って行ってしまいました。私達は大変心配でしたが、気分がすっきりして素晴らしいと思えました。その経験がありましたので、同じ事をやりました。そしてメーキャップを無事すまして、会社へ帰ると会社の総務部長が私の車を見て、「社長、車のバンパーが大変へこんでおります。これはすぐ取り替えないとイケません。」と言われ、十数万円修理代としてとられました。ちょっといい格好をして大変な損をしました。それからメーキャップはギリギリではなく、余裕を持ってするようになりました。

幹事報告

稲葉 徹幹事

・本日メールボックスに2005~2006年度の為の地区協議会のご案内が入っております。出席義務者の方、並びに出席予定の方は次週2月17日(木)迄にお返事お願い致します。

出席報告

佐藤一郎出席委員長

会員75名 出席54名 (出席計算人数55名)

出席率78.18%

2月3日は補填により 94.55%

1月27日は補填により 96.36%

1月20日は補填により 100%

臨時例会変更のお知らせ

名古屋南	2/23(水)		
名古屋北			3/11(金)
名古屋東			3/14(月)
名古屋守山			3/16(水)
名古屋みなと			3/11(金)
名古屋東南	2/23(水)		3/16(水)
名古屋中		2/28(月)	
名古屋和合		3/2(水)	
名古屋名東		3/1(火)	3/15(火)※
名古屋名北		3/2(水)	
名古屋千種	2/22(火)※		3/8(火)
名古屋名南	2/22(火)◇		3/8(火)※ 3/15(火)◇
名古屋名駅	2/23(水)		3/16(水)※
名古屋西南			3/10(木)
名古屋空港	2/21(月)		3/7(月)
あま	2/21(月)		
西春日井			3/15(火)※
豊山一城北	2/22(火)		3/8(火)

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

◇はサイン受付時間が17:30~18:30となります。

ニコボックス

小林幸男ニコボックス副委員長

- ・2月4日立春は、私の誕生日でした。 **宇佐美貞夫君**
- ・2月23日は誕生日です。何の感想もありません。 **中川啓二郎君**
- ・2月20日は誕生日です。66才になります。これからまだまだ頑張ります。 **松井 善則君**
- ・2月13日は私の誕生日です。 **亀井 直人君**
- ・2月14日バレンタインデー。たまたまその日が我々の結婚記念日です。 **長坂 邦雄君**
- ・花粉症になってしまいました。薬の関係もあって、集中力低下と戦っています。 **船渡 昭人君**
- ・今日は熱田神宮の研究員が卓話をさせていただきます。 **小串 和夫君**
- ・昨晩はワールドサッカー予選での、ジーコジャパンの勝利に酔いしました。 **野崎 洋二君**

委嘱状伝達

2005～06年度第2760地区ローターアクト委員会委員長並びに、新世代委員会委員に委嘱された遠山堯郎君に、館副会長より委嘱状が伝達されました。



卓話

文化研究員 野村辰美氏

「熱田神宮と頼朝・義経」

私は熱田神宮において熱田神宮の歴史の編纂をしております。そういった中で見聞きした事をこの場でお話ししたいと思います。今NHKで源義経が放映されておりますが、その義経が生きた平安時代の後期の京都と熱田とは関係があるようです。熱田神宮と申しますとご神体が草薙の剣である縁からか、古来より多くの刀剣が奉納されております。現在では四百振り近く収蔵しておりますが、その昔の記録によりますと、今よりも倍近くの刀剣があったと伺い知る事が出来ました。その中には源頼朝より奉納の太刀や、その父である義朝が奉納した剣などもあったといわれています。

源頼朝の母が熱田の大宮司の娘である事はよく知られていると思います。それがどういった関係なのかと申しますと、熱田の長は平安期には大宮司(現宮司)でありました。大宮司は尾張氏といひまして、尾張の国を支配していたものが代々宮司を務めていたようです。しかし平安時代の終わり頃、(11世紀後半)大宮司員職(かずもと)が娘を藤原氏の南家藤原季兼の元へ嫁がせました。この藤原季兼という人物は尾張目代であり、三河四郎太夫というように、愛知の国にいた経歴もあり、大宮司家とも接触があったのではないかとされています。そしてその間に生まれたのが季範(すえのり、としのり)で、員職は大宮司の位を譲ります。それまで尾張氏が大宮司家でありましたが、以後藤原氏に移行致しました。どうしてそういう事になったのかと申しますと明確な記述はありませんが、巷では「桜花 散りなん後の 形見には 松に掛かれる 藤を頼まん」という歌がもてはやされました。その後、藤原季範の娘が武家の頭領である源義朝の元へ嫁ぎ、その間に生まれたのが頼朝です。なぜこういった縁があったかと申しますと、季範には3人の娘がおり、その一人が京都に出て上西門院(後白河天皇の准母)の女房として仕え、もう一人の姉が待賢門院の女房として仕えておりました。兄も仁和寺の僧であったという事です。そのように兄弟姉妹が京にいたことから、源氏とも何らかの接点があったのではないかとされています。それから源義朝の父為義も、一時期尾張目代という事で、尾張の国に赴任していた事から、大宮司家と何らかのつながりがあったのではないかとされています。

熱田の近くに源頼朝が生まれた誓願寺という尼寺があり、門前に「源頼朝生誕の地」と書かれた石碑があります。なぜお寺に頼朝誕生の碑があるのかという事ですが、かつてこの場所には熱田の大宮司の屋敷があり、子供を産む際、実家に帰って産んだという事です。その後寺院が建てられたという訳です。源頼朝は義朝の三男です。三男であるにもかかわらずなぜ頭領を受け継いだかと申しますと、熱田の大宮司の娘を母に持つという後盾が影響しているのではないかとされています。



他にも次のような話があります。源義経が元服する際に熱田の大宮司が儀式にあたったという事です。古代及び中世期におきまして、貴族・武家にかかわらず元服という儀式は大変重要な通過儀礼であったようです。この当時、一人前の大人になった証に常に帽子をかぶっていました。それが烏帽子です。武家の場合は烏帽子をかぶる際に、有力な人物に「烏帽子親」となってもらい、後々は後盾となってもらおうという事だそうです。この事は室町時代に出来ました「義経記 巻二」に出てきます。義経がどこで元服をしたのかはこの「義経記」や伝承に残っているぐらいではっきりしておりません。「義経記」そのものも室町時代に書かれたものですので正しいものかどうかは分かりません。ですがその当時、多くの人たちにとりまして熱田の大神というのは大変な後盾であったという事です。それが「義経記」のような文章や、伝承を伝える事が出来たのではないかと思います。もう少し熱田と頼朝の関係を追ってみますと、源頼朝が父・義朝とともに平治の乱において捕らえられますが、本来ならば嫡子としてその命はなかったのですが、なぜか助けられ伊豆に流されます。その時に助けたのが平清盛の継母である池禅尼であります。実はこの池禅尼と熱田の大宮司とは姻戚関係にあったと言う説があります。また「尾張名所図絵」などを見ますと、熱田の近くに池禅尼が住んでいた地があったと言うような伝承もあるようです。つまり熱田を中心として源氏や平氏の公達が結びついてきたという事が分かるかと思えます。では実際池禅尼が藤原大宮司家と姻戚関係にあったかといひますと、系図等で見ますと全く結びつきはありません。「平家物語」によりますと、頼朝が助けられたのは池禅尼の力であり、池禅尼が幼くしてなくした子供に似ているところから助命嘆願をしたのではないかとされています。ですがそれ以上の事は分かっていないのが実情であります。しかしながら熱田の大宮司の一族、季範は頼朝にとっては叔父に当たり、頼朝が伊豆に流される際には供のものを遣わせて、流された後の面倒も見ていたという事であり、頼朝はその恩を忘れず、池禅尼の息子である平頼盛が源平合戦で亡くなった後、その遺族を手厚く保護したと伝えられています。鎌倉に幕府を開いた頼朝は、その中心に鶴岡八幡宮を整備・建立致しました。その際境内の真下に熱田社を勧請いたしまして、自分の母の実家である神様をお祭りしたという事です。中世期において神仏に祈りを捧げるという事はとても重要な事であり、また自分達の身を守って頂けるといふ事を素直に信じたようです。そして鎌倉時代に武家法が出来、その法の第一条に書かれているのは「神社修理の事」です。そこに大変有名な文句が残っております。「神は人の敬うに依って、威を増し、人は神の徳に依って、運を添ふ。」最初の武家政権を開いた頼朝によって考えられた武家法ですが、そこには神の加護が基底となっているのだと私なりに考えております。

一方、源義経は奥州に下り、藤原秀衡の加護を受け平氏追討をする訳ですが、秀衡の死後は庇護を受けられず非業の最期を遂げてしまいます。義経は平氏を倒すために生まれてきた人物といわれます。また判官鼻眞という言葉がありますが、これは源義経が九郎判官と呼ばれた所から判官鼻眞という言葉が起ったようです。こういったエピソードが多い平安後期、末期の史実の中で、熱田と頼朝、義経の関わりをお話しさせて頂きました。

今週卓話

2月17日(木)

卓話講師: ハンガー・フリー・ワールド ウガンダ支部担当
吉田千代子様

テーマ: 「学校へ行きたい子どもたち
～ウガンダ共和国の子どもたちとその現状」

次回行事予定

2月24日(木)

4RC合同例会: 18:00より
於: ヒルトン名古屋